

第1回 レクチン利用技術研究会・ワークショップ

日時：9月12日（月）13：00～17：00、交流会 17：30～
場所：産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館11階会議室1
（住所：〒135-0064 東京都江東区青海2-3-26）
主催：レクチン利用技術研究会
共催：TIA/TIA連携プログラム探索推進事業「かけはし」
後援：一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会
参加費：無料

プログラム

（進行：産業技術総合研究所 新聞陽一）

- 13：00～13：05 ●開会挨拶
産業技術総合研究所創薬基盤研究部門・研究部門長 織田 雅直
- 13：05～13：15 ●挨拶
産業技術総合研究所TIA推進センター・連携推進ユニット長 青柳 昌宏
- 13：15～13：25 ●趣旨説明
産業技術総合研究所創薬基盤研究部門・主任研究員 館野 浩章
- 13：25～14：05（40分）●特別講演1
「レクチン：たんぱく質界のドン・ファン」
帝京大学・名誉教授 笠井 献一
- 14：05～14：35（30分）●技術講演1
「タランチュラ毒由来のペプチドライブラリーとペプチドディスプレイと電気生理学的技術を用いた三位一体のイオンチャネル創薬」
産業技術総合研究所創薬基盤研究部門・主任研究員 木村 忠史
- 休憩（15分）
- 14：50～15：20（30分）●技術講演2
「スマートポリマー（スマポ）で拓く未来医療」
物質・材料研究機構 MANA ナノライフ分野・MANA 准主任研究者 荻原 充宏
- 15：20～15：50（30分）●産学官連携事例紹介
「レクチンを用いた試薬の開発とその応用」
和光純薬工業株式会社 天野 誠
- 15：50～16：30（40分）●特別講演2
「動物レクチンのはたらき」
立命館大学 上席研究員 川崎 敏祐
- 16：30～17：10（40分）●総合討論
「今後の活動計画」
産業技術総合研究所創薬基盤研究部門・首席研究員 平林 淳
東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授 山本一夫
- ☆ 交流会（17：30～）有料（学生は無料）



自由参加、オープンディスカッション形式。参加を希望される方は、所属、名前、連絡先（メールアドレス）、懇親会の参加の有無を下記の連絡先までメールにてご連絡ください。なお、お預かりしました個人情報には本研究会に関わる目的のみに使用し、他の目的への使用、第三者への提供は致しません。

連絡先：レクチン利用技術研究会事務局（lectin_ml@aist.go.jp）

（件名は、[レクチン利用技術研究会参加申込]として下さい）

締切：9月5日（月）

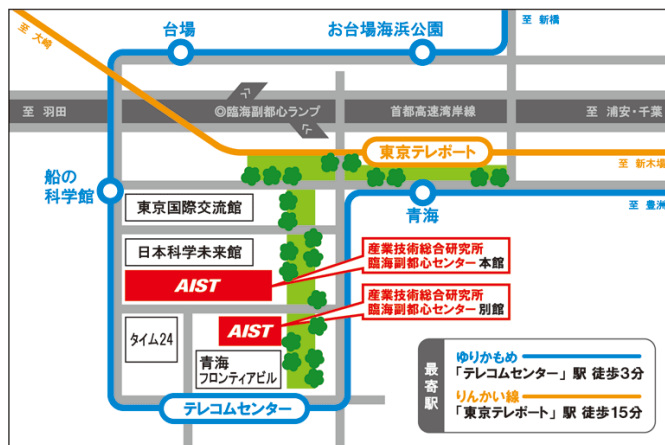
会場アクセス：電車のご案内

○新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅下車 徒歩3分

○りんかい線「東京テレポート」駅下車徒歩15分

その他の交通については以下サイトを参照

<http://www.aist.go.jp/waterfront/ja/access/>



<レクチン利用技術研究会—設立趣旨>

レクチンは糖に結合するタンパク質の総称で、1888年にStillmarkによってヒマ種子から最初に発見されて以来、多くの生物から見つかっています。レクチンは古くから糖鎖解析のための試薬として用いられてきましたが、一般に特異性や親和性が低いというイメージがもたれ、残念ながら抗体の代替品程度の感覚で用いられてきたのが実情です。しかし近年、レクチンの基礎・応用両面で急展開を見せ、糖鎖を標的とした場合、レクチンには抗体を凌ぐ潜在能力がある事例も示されつつあります。またこれまでの研究経緯から、レクチンは赤血球凝集活性を持ち、細胞毒性が高いという印象が強く持たれています。しかしこれは古典的なレクチンに対する固定観念であり、実際にはそれぞれのレクチンの性質や機能は多種多様です。近年、技術的には数多くのレクチンの組み換え体化や糖鎖プロファイリングへの応用が進み、また再生医療や診断薬への応用開発が注目されています。こうしたレクチン利用技術はこれまで日本が世界をリードして開発してきたものであり、日本が誇るべき学問領域です。今回 TIA 連携プログラムへの採択を契機に、レクチンの普及化を理念として掲げ、レクチンの学術的・産業的發展を目的として、本研究会を発足するに至りました。本研究会では、勉強会やワークショップ等の開催を通して皆様のレクチン研究の推進に貢献できるよう努めて参ります。ご支援ご協力の程、何卒宜しく申し上げます。

<発起人>

館野浩章(産業技術総合研究所)

平林淳(産業技術総合研究所)

山本一夫(東京大学)

大河内信弘(筑波大学)

小田竜也(筑波大学)

加藤龍一(高エネルギー加速器研究機構)

荏原充宏(物質・材料研究機構)

